知的障害者の自己決定に関わる問題解決能力の形成に向けた学習支援

-生涯学習機会での実践を通して-

企画者　城田　和晃（東京都立矢口特別支援学校）
　　菅野　　敦　（東京学芸大学教育実践研究支援センター）
司会者　今枝　史雄（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）
話題提供者　今枝　史雄（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）
　　城田　和晃（東京都立矢口特別支援学校）
　　吉澤　洋人（東京都立清瀬特別支援学校）
指定討論者　井澤　信三（兵庫教育大学）

KEY WORDS: 成人期知的障害者　問題解決能力　生涯学習支援

【企画趣旨】

成人期知的障害者の近年のキーワードとして自己決定が挙げられている。Wehmeyer,M,et.al(1996)は自己決定には問題解決能力が関係するとしているため、適切な自己決定に向けて問題解決能力の形成が必要であると言える。そこで今枝ら(2017)はこれまで提言されてきた自己決定および問題解決プロセスを踏まえ、問題解決プロセスとの関連からみる「自己決定の選択プロセス」を提案した。そこでは、自己決定に含まれる選択行為には選択する選択肢(問題・対象物)の理解(以下、問題理解)が必要であるとしている。

これまでの知的障害者の問題解決研究は「進路選択などの社会的な問題解決の基礎となる心理的プロセスの解明」のために実施されてきた(渡邊,2006)。しかし、自己決定に必要とされる問題理解には論理的な操作が必要とされているため、それに類似する課題はほとんど取り組まれてこなかった。大宮(2008)は幼児を対象に条件推論課題を用いた研究を行い、幼児でも課題の提示方法を工夫することで、論理的な操作が可能であることを明らかにした。これらの知見を踏まえると、論理的な操作の困難な知的障害者でも、提示方法の工夫などを行うことで論理的な操作を伴う問題理解プロセスの遂行が可能になることが示唆される。

以上の課題から、成人期知的障害者の生涯学習支援の取り組みであるオープンカレッジ東京では、知的障害者の知的機能および学習特性の特徴を踏まえ、自己決定の選択プロセス、中でも問題理解プロセスに関わる能力の形成を目的として「科学講座」「地理講座」の２講座を開催している。

本シンポジウムでは知的障害者の自己決定の選択プロセスを紹介し、中でも問題理解プロセスに関わる能力の形成を目的とした「科学講座」「地理講座」の取り組みを報告するとともに、それぞれの講座の問題理解プロセスの遂行状況について検討することを目的とする。

【話題提供者の趣旨】

１．知的障害者の自己決定の選択プロセスについて（今枝史雄）

田中ビネー知能検査の項目分析より、知的障害者は二つ以上の選択肢(対象物)を比較する際、自ら観点を抽出することが困難であることが明らかになっている。こうした知的障害者の知的機能の特徴と先行研究で指摘される学習特性の特徴を踏まえ、「知的障害者の自己決定の選択プロセス」を提案する。自己決定の選択プロセスに含まれる「問題理解」プロセスは「要素の抽出」「要素の整理」「観点の命名」「特定」「自己説明」としている。それぞれのプロセスの詳細と、その支援ツールであるマトリックス表の紹介を行う。

２．「サイエンスラボ（科学講座）」における取り組みを通して（城田和晃）

本講座は小学校６年生の理科の内容である「水溶液の性質」を題材として、３種類の水溶液(「酢酸水」「砂糖水」「漂白剤」)の性質についてリトマス試験紙を用いて調べ、その結果からそれぞれの水溶液名を特定するという活動を行った。水溶液の特定に至るプロセスとして、リトマス試験紙の反応実験の結果を記録する「要素の抽出」、リトマス試験紙の反応(色の変化の有無)を表にまとめる「要素の整理」、実験結果と水溶液３種の性質から水溶液名を決定する「特定」、特定理由を説明する「自己説明」とする４つのプロセスを想定し、それぞれの達成状況について分析を行った。知的障害者 23 名(平均 CA33.65 歳±8.26、平均 MA7.56 歳±2.02)におけるそれぞれのプロセスの達成は、「要素の抽出」78.3%、「要素の整理」91.3%、「特定」73.9%、「自己説明」78.3%であった。要素の整理は達成率が９割を超える結果であったが、実験結果を同様の行列に転記していく活動であったことから高達成率につながったことが考えられる。

３.「ディスカバーWorld（地理講座）」における取り組みを通して（吉澤洋人）

学習者にとって身近な飲食物(お茶３種：「緑茶」「ウーロン茶」「紅茶」)を題材に実施した。講座は①講義を聞く、②講義内容をまとめたシートからお茶(３種)の要素を書き出す(「要素の抽出」)、③書き出した要素を「マトリックス表」に整理し、観点を抽出する(「要素の整理」、「観点の命名」)、④お茶(実物の茶葉)を比較して３種のお茶を特定という展開で行った。これまでは支援者側が提示していた対象物に含まれる「要素」や比較の「観点」は、本講座では教材および支援方法(ヒントカードの使用)などを準備することで学習者自らが取り組めることを目指した。

「要素の抽出」ではヒント提示も含め９割以上の受講生が達成した。また、活動を重ねることで少ない支援で達成する傾向も見られた。「要素の整理」「観点の命名」では約６割の受講生が達成した。今後の課題として、今回「要素の抽出」から「観点の命名」まで準備できた連続した活動を「特定」以降のプロセスにも用意することと考える。

【指定討論者の趣旨】：井澤信三

それぞれの話題提供を受け、①成人期の学習支援について、②知的障害者が自己決定に向けて問題解決の手法を身に付ける意義とそれらを育む支援について、といった２つの視点から討論点を提供したいと考えている。

(SHIROTA Kazuaki, KANNO Atsushi, IMAEDA Fumio, YOSHIZAWA Hiroto, ISAWA Shinzo)